

中高一貫だより

＜編集・発行＞
えりも地区連携型
中高一貫教育
推進委員会事務局

環境教育フィールド学習B～高校での取組～

9月20日(水)、中高一貫教育カリキュラムの一つである「百人浜フィールド学習B」を行いました。この事業は、国が1953(昭和28)年から行っている百人浜治山緑化事業を、2006(平成18)年から中高一貫の郷土学習・環境教育に取り入れ実施しているものです。6月に中学生が植樹、9月に高校生が枝打ちすることで、さらなる緑化と先人が守ってきた森林の保全に取り組んでいます。

はじめに、えりも岬林業研修センターにて開講式が行われ、えりも町教育委員会教育長 川上松美 様、および日高南部森林管理署長 春山邦明 様から、生徒に向けて御挨拶と激励をいただきました。その後、日高南部森林管理署・えりも治山事業所の瓜田元美 様 から、枝を落とすことによって、光が入り、光合成がしやすくなることや、風通しが良くなり、樹木が大きく成長できることなど、枝打ちの理由を詳しく説明していただきました。



開講式終了後、バスに乗車して生徒が中学時代(2年前)に植樹した場所に行き、成長を確かめました。自分が植樹したことがわかるように、プレートがついています。自分の名前を見つけて、歓喜の声が上がる場面もありました。



その後、百人浜駐車場近くの枝打ち箇所へ移動して、枝打ち作業を約1時間実施しました。自分の背の高さくらいまでの枝を切り落とすことで、通気を良くし、土壌に光を当てて、木がより丈夫に成長できるようにします。どの生徒も一生懸命取り組んでいました。



最後に、標柱(平成29年度中高一貫作業場所)前にて、1年生全員で記念撮影をしました。その後、日高南部森林管理署 治山技術官の瓜田元美様から、生徒全員に記念品のコースターをいただきました。今年度も枝打ち作業を通して、先人たちから続くえりもの治山事業に、地元の若者が関わることができました。生徒の郷土に対する理解の深まりや、郷土を大切に思う気持ちが育まれたことを実感しています。また、中学生の時に植林を経験していたことから、森林への愛着もより深まっていたようで、中高一貫教育の「未来えりも学」が定着していることも確認できました。御指



導御協力いただきました日高南部森林管理署、ひだか南森林組合の皆様、援助いただきましたえりも町役場産業振興課、えりも町教育委員会の皆様に、改めて御礼申し上げます。

百人浜事業を終えて・・・生徒のレポートより

1年A組 菊地 大翔

事前学習では、枝落としする意味やえりもの砂漠開拓の物語、いかにして広大な森林地帯にしていったのかをしっかりと学ぶことができました。中学時代に植樹した木々をみて、最初は自分の木だとはわからないくらいになっていて、自分も、自分の植えた木もこんなに大きくなったんだなあと思いました。今後も立派な大木になってくれることを祈ります。枝打ちの作業は、そんなに力を入れなくても切れるんだなあと思いました。枝落としした後は木々の隙間から日光が射して木の下を照らしていました。これからもえりものを二度と砂漠化させないように、木々を伐採しすぎないで欲しいし、先人たちの遺志を受け継いで森林を守りたいと思いました。

1年A組 山崎 莉菜

社会の授業で、元々知っていたこともまた再確認して知ることができました。砂漠の状態から、今の緑があるえりも岬になるまでには想像のできない大変さを感じました。中学時代の植樹の現場をみて、自分たちが植えたものがあんなに成長していると思いませんでした。改めて、植物を育てることだったり、生命力ってすごいなあと思いました。普段生活している中で、近くに自然があり木もある環境にいるけれど、枝切りなど普通はできない体験ができて良かったです。これからもこのすてきなえりも岬を守るため、自然を保つために続けて行って欲しいと思いました。

1年B組 高松 優美

昔のえりも岬は砂漠状態で木が全然なく、海も大変でコンブがとれなくなっていました。それを直すためにマツの木を植えたりしたが、えりも岬の風でほとんどが飛ばされていきました。でもそこからあきらめないでやり続けた結果、今があることを社会科で学びました。森林管理所の方のお話を聞いて、枝打ちのやり方がよくわかりました。何のためにやるかなどがわかり、それが大切な作業であるとよくわかりました。中学時代に植えた木は、少し枯れている感じがしましたが、ちゃんと育っていて良かったなあと思いました。このまま大きく育って行って欲しいです。また、枝打ち作業はすごく疲れました。でも、これをやることによって光が届きちゃんと育つようになるんだなあと思い、これを毎回やるのはすごいことだと思いました。ノコギリを使って大変だったけど、少しだけまたやりたくなりました。何十年も前から、小・中・高と百人浜事業を続けていることを知りました。砂漠状態から、みんなで力を合わせてここまで木が増えたことを知って良かったです。

1年B組 渡辺 夢乃

学校の授業では、どうやって今のえりも町になったのか、どのようにして自然をつくっていたのかがよくわかりました。また、沢山の人がえりも町の森林づくりに関わっていたことなど、沢山のことを学ぶことができました。森林管理所の方々にお会いし、沢山の人がいて、こんなにも様々な人たちがえりも町の自然に関わっているということがすごいと感じ、枝落としをする理由やその結果などのことを学ぶことができました。中学時代に自分たちで植えた木をみると、しっかり育っていてすごいと思いました。とても大きくなっていたので、自分が植樹したとは思えないくらい成長していたと感じました。枝落としをする前は、日陰になっていて暗い印象だったけど、枝落としをすると明るくなってとてもキレイになってすごいと思いました。切る時は、けっこう力を入れないとあまり切れない感じがしました。今回の百人浜事業では貴重な体験をすることができました。今回学んだことをこれから生かしていきたいです。